



骨と軽蔑

KERACROSS 5

Written & Directed by KERALINO SANDOROVICH

手練れの女優7人と一緒に辛辣なコメディを作ってみた。会話劇だ。会話、会話、会話。今は一応コメディと呼んでおくけれど、作品を占める笑いは苦味の強いものばかりになるかもしれない。

2020年から2022年(それはコロナ禍と重なる)には原作モノひとつ極めて5本の芝居を書いた。その中には、心温まる群像劇や、家族で観て皆が笑顔で帰れるようなファンタジーもある。創りたくて創ったのだし、満足もしているが、2023年に入るとまったくそうした気分はなくなっていった。軽いものを書くにも己の気持ちに軽やかさが無い。それで、ズッシリと重く冷やかな世界に美しさを探り、緊張感が支配する2本の芝居を書いた。

年が変わり、2024年になったらどんなものが書けるだろうか。ヒリヒリしてばかりはしんどいから、そろそろ少し軽くいきたい。隣にあるビジュアルの通り、「居並ぶ墓石(の絵)を前にして楽しそうに笑う女たち」がイメージだ。そんな不謹慎な笑ってしまえるような舞台になるといいなあ。

今回は派手な仕掛けは使わないつもり。彼女たちの芝居が仕掛けた。全力を注ぐ。よろしくお願ひ。

作・演出：ケラリーノ・サンドロヴィッチ